

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591200013		
法人名	大平有限会社		
事業所名	もみの木グループホーム		
所在地	山口県柳井市中央1-8-1		
自己評価作成日	平成24年10月22日	評価結果市町受理日	平成25年4月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護される側、介護する側ではなく、入居者と介護スタッフがお互いに支え合って生きていくという理念の「共に生きる・友に生きる」を柱として、アットホームで笑顔の絶えない生活空間を目指しサービスを提供しています。認知症の疾病を理解し、一人一人を大切に、人として普通に生活して頂き出来ない事を支援していきたいと思っています。また、柳井市の中心に立地している環境を活かし、近所の観光名所や喫茶店などに散歩がてら出かけています。

「共に生きる・友に生きる」という事業所の理念を実践しておられ、年4回事業所だよりを地域に回覧されたり、地域の集会や行事に参加しておられ、地域の方々が事業所の防災訓練に参加されたり、事業所の祭りへの地域の方々の参加も年ごとに増えるなど、多くの関係者や地域の人々との交流を深められています。近隣にはボーリング場やタクシー会社、ガス会社などの法人企業があり、緊急時の支援体制や連携が図られています。2ヶ月に1回開催される運営推進会議への家族の参加が増えたことで、サービスや行事への提案も寄せられ、ソーメン流しや日帰り旅行など家族と一緒に参加できる行事の実現に繋がっております。事業所が街の中心部に近い場所に立地し、商店街や公園なども近く、利用者は日々の生活の中で買い物や散策を楽しんでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月1回のミーティング・勉強会等で確認しあっている。	地域密着型サービスの意義をふまえた「共に生きる・友に生きる」という事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。管理者と職員は理念を共有して日々のケアの実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りやイベントに積極的に参加・協力している。	自治会に加入し、年4回事業所だよりを自治会に回覧している。利用者は散歩や買い物、喫茶店などで地域の人と交流している。年2回の事業所まつりは新聞折り込み広告で案内し、毎年参加者が増えており、利用者は地域の人と楽しい時間を過ごしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加されている地域の方に認知症に対する情報をお伝えしもみの木だよりを自治会に配布し、理解してもらえるよう努めている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	意義を理解し取り組んでいる。	ユニットの主任を中心に自己評価に取り組んでいるが、全職員が評価の意義や項目の理解ができているとは言えない。	・評価の意義の理解と項目ごとの理解	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告し意見を生かすようにしている。	自治会長、民生委員、市担当課、家族5名、職員で2ヶ月に1回開催している。家族全員に案内状を送付し、家族の参加が増えている。提案により、日帰り旅行やソーメン流しなど家族も参加する行事を行うなどサービスの向上に活かしている。		
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば相談できる協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議の他、市担当課と日頃から連絡を密に取り、事業所の取り組みを伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の指針があり、拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティングや勉強会で学び、職員は正しく理解しており、拘束をしないケアに取り組んでいる。2階に事業所があり、階段入口は扉が設置してあるが、自由に開閉ができ、ユニット入口、エレベーター、玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての指針があり虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中に後見人を活用されている方がいるので制度は理解している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解と納得が得られるように十分説明するようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や相談を気軽に言ってもらえる関係を築いている。第三者委員や、苦情先を明記している。	相談、苦情の受付体制や第三者委員、外部機関を明示し、処理手続きを定め周知している。日頃から家族が意見や要望を気軽に言える関係を築いて、面会時や電話などで意見や苦情を聞き、記録して、運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞き反映するようにしている。	管理者はミーティングや勉強会で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日々の業務の中でも意見が言いやすい関係づくりに努めている。ホーム日誌の改善やバイタルチェック票の見直し等の提案があり、ミーティングで話し合い、運営に反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修・外部研修に出来るだけ参加してもらっている。	外部研修は県外研修の含め、参加の機会を提供している。内部研修は毎月1回実施し、資格取得については情報を提供し支援するなど、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の事業者連絡協議会の会員であり勉強会に参加しネットワーク作りを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の話をゆっくり聞くようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と協力して共に本人を支えていくよう度量している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援に努めている。	友人や知人の来訪、馴染みの喫茶店や理美容院の利用、商店での買い物、公共施設の利用、家族の協力を得て外泊するなど、馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に立ち、関わりあえる様に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援につとめている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握に努め、困難な場合は家族の意向も含め本人本位に検討している。	利用者一人ひとりに向き合う場を大切にして、雑談の中から利用者の意向や気持ちを把握するように努めている。困難な場合は本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンス・朝夕の申し送り等で、それぞれの意見やアイデアを反映するようにしている。	本人や家族、かかりつけ医、職員の意見を参考にして、介護計画を作成している。毎月担当職員がモニタリングを行い、6か月毎にアセスメントをして見直しをする他、状態の変化に応じて見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ホーム日誌などに記録し情報を共有している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に取り組むようにしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は、本人・家族の希望で決めており、受診往診などそれぞれに対応している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援し、情報提供を行い、訪問診療等にも対応している。予防接種は協力医療機関で利用者全員に実施する他、緊急時の対応もしているなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切な受診や看護を受けられるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換をし病院関係者との関係作りをしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末ケアの方針を定めており早めに家族と話し合い支援に取り組んでいる。	「医療連携体制及び重度化対応・終末ケア対応指針」があり、本人や家族に説明している。本人や家族の希望に沿った支援が出来るよう、かかりつけ医とも相談しながら、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故対応マニュアルがあり、勉強会などで、初期対応の方法などを話し合っている。	ヒヤリハット報告書、事故報告書を作成し、検討して一人ひとりの事故防止に努めている。事故防止マニュアルがあり、勉強会を行なっているが、定期的な訓練は実施していない。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練を行っている。地域の方にも参加して頂くよう協力を求めるようにしている。	年2回、消防署の協力を得て、利用者と一緒に階段を使つての避難方法など実践的な防災訓練を行っている。訓練に運営推進会議メンバーや地域住民等の参加を呼びかけて地域との協力体制を築くよう取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。	接遇研修やプライバシーの保護についての研修を随時行い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿って支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力にあったお手伝いを一緒にしている。	併設するディサービスセンターの栄養士が献立を作成している。昼食の主菜はディサービスセンターの厨房からの配食を利用し、それ以外は事業所で調理している。準備、調理、片付けなどを利用者と職員と一緒にしている他、外食にも出かけるなど食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをおこなっている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立に向けた支援をおこなっている。	排泄記録表を活用し、声かけや誘導で、利用者一人ひとりに応じた排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた予防に取り組んでいる。(飲み物・食べ物の工夫)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々に応じた支援をしている。	一人ひとりの希望に合わせて、毎日入浴が楽しめるよう支援している。利用者によっては併設のディサービスセンターの特浴を利用したり、状態に合わせて清拭や足浴の支援もしている。入浴は個別に対応しコミュニケーションにも配慮している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員共通に理解し、適切に服薬管理をしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に応じて支援している。	花を活ける、おやつの時間にお茶を入れたり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、テーブル拭き、オセロ、麻雀、編み物、ゲーム、レクリエーションなど楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や外食・散歩やドライブなど様々な支援をしている。	本人の希望に沿って、買い物、喫茶店、ドライブ、地元の祭りなど外出の支援をしている。家族の協力を得て錦帯橋、フラワーランド、田布施川花見など出かけられるよう支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行き、自分の財布でお金を払えるよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にできるようにしている。要望があれば支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごせるようにしている。	テレビを囲むソファや炬燵のある畳の間など、利用者が思い思いに団らんし憩える場所を確保してある。温度や明るさに配慮し、壁には利用者の作品や外出時の写真を掲示し、広いベランダでは洗濯物を干したり、戸外の景色を楽しむことができるなど、居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が心地よく過ごせるよう工夫している。	ベット、家具、布団、テレビ、パイプハンガー、カーテンなど家で使っていた馴染みの物を持ち込み、本人が安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立して生活できるように工夫している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 もみの木グループホーム

作成日： 平成 25年 4月 16日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	評価の意義と理解を全職員が理解できているとは言えない。	全職員が評価の意義を理解し、自己評価を業務の見直しとしてとらえ、具体的な改善に取り組む。	評価の意義を理解してもらえるように説明し全職員で自己評価を実施する。評価結果について業務の見直しとして捉え見つかった改善点は全員で話し合い具体的な改善に活かす。	12ヶ月
2	35	応急手当や初期対応のマニュアルはあるが、具体的な実施訓練が行われていない。	全職員が応急手当や初期対応が的確にできるように実施訓練を行う。	応急手当や初期対応のマニュアルを再確認しながら、看護師を講師として全職員に定期的な実施訓練を行う。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。